

構造特記仕様書

2023年度版

§ 1 一般事項

選択項目は○印を適用し、●印が無い場合は※印を適用する。
○印が複数有る場合は、共に適用する。

1-1

使用材料は原則としてJIS規格品、JAS規格品、又は大臣認定品とする。

1-2

設計図書の優先順位は下記による。
1)本特記仕様書
2)設計図
3)標準図○鉄筋コンクリート構造配筋標準図○鉄骨工作標準図
●鉄筋鉄骨コンクリート構造標準図●高強度せん断補強筋施工仕様書
●鉄筋コンクリート壁式標準配筋図
4)仕様書（●公共建築協会※日本建築協会）
5)日本建築学会標準仕様書、JASS5 2018年、JASS6 2018年

1-3

各工事に際して、施工計画書及び施工図を提出し、工事監理者の承諾を得る。

1-4

構造関係材料及び各種試験成績書・検査報告書を作成し提出する。
第三者機関による検査・試験費用は工事費に（※含む●含まない）
設計図書に示されていない材料、工法等を採用する場合は文書にて工事監理者の承諾を得る。

1-5

設計図書に示されていない材料、工法等を採用する場合は文書にて工事監理者の承諾を得る。

1-6

梁貫通位置、径、及び箇所数は（●意匠図●構造図※設備図）による。

1-7

その他

§ 2 構造計算ルート

2-1

方 向	構造計算ルート
X	○ ルート1● ルート2● ルート3●
Y	○ ルート1● ルート2● ルート3●

2-2

鉄筋の継手(定着については設計図若しくは標準図による)
構造計算ルート別による主筋又は、耐力壁の鉄筋の継手の重ね長さ
※ 建築基準法施行令第73条第2項による仕様規定
○ 日本建築学会 JASS5 (2018)、鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説
○ 日本建築学会 RC規準2018
XY両方向共ルート3及び限界耐力計算の場合は、令第73条第2項の仕様規定によらずJASS5 (2018)、鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説及びRC規準2018とすることができる。

§ 3 仮設工事, 土工

3-1

山留め、根切り

3-2

埋戻し土、盛土、残土処分
埋戻し土※根切り土の中の良土●搬入良土(埋戻し土は30cm毎に転圧締固めを行うこと)
盛土※根切り土の中の良土●搬入良土(盛土は30cm毎に転圧締固めを行うこと)
残土処分●場内地均し※場外搬出処分(※自由●指定場所)

§ 4 地業工事

4-1

基礎及びスラブ下地業（単位mm）

場 所	捨てコンクリート厚さ	注1) A：砕石 B：割栗石	厚 さ
基 礎	独立,布	◎ 50 ● 60 ● 100 ※ A ● B	※ 60 ● 100 ◎ 150 ●
	ベ タ	※ 50 ● 60 ● 100 ※ A ● B	※ 60 ● 100 ● 150 ●
	基 礎 梁	◎ 50 ● 60 ● 100 ◎ A ● B	※ 60 ● 100 ● 150 ◎ 50
土間スラブ	※ 50 ● 60 ● 100 ※ A ● B	※ 60 ● 100 ● 150 ●	
土間コンクリート	屋内	※ 50 ● 60 ● 100 ※ A ● B	※ 60 ◎ 100 ● 150 ●
	屋外	● 50 ● 60 ● 100 ※ A ● B	● 60 ※ 100 ● 150 ●

注1). アンカーボルト支持用フレームの、あと施工アンカーを打込む部分は100以上とする。
注2). 端部aは100以上とする。

a

4-2

設計地耐力 長期 110 kN/m² 短期 200 kN/m² 終局 300 kN/m²
地耐力載荷試験●行う（●箇所,長期設計耐力の3倍を確認する）※行わない

4-3

地盤改良
●無筋コンクリート地業●締固め工法○ソイルセメント杭
●セメント系固化材攪拌●圧密排水工法●
〔●載荷試験○一軸圧縮試験〕○行う（1箇所）※行わない
〔○六価クロム溶出試験〕○行う※行わない
○室内配合試験

4-4

既製コンクリート杭、鋼管杭、その他特殊杭
1)杭種
●PHC杭●A種●B種●C種●
●ST杭●A種●B種●C種●
●SC杭 t mm●●●●
●PRC杭●I種●II種●III種●IV種
●節杭●A種●B種●C種●
●鋼管杭
2)工法
●打撃工法●油圧ハンマー●ディーゼルハンマー
●埋込み工法●プレボーリングセメントミルク注入工法
●プレボーリング拡大根固め工法(認定工法)
杭周固定液※あり●なし
●中掘拡大根固め工法(認定工法)
●回転埋設根固め工法(認定工法)
●回転杭工法
先行掘削※あり●なし

3)杭径,設計耐力,本数表（柱状改良）

杭径(底部)mm	長期kN	短期kN	終局kN	本数	備 考
Φ800（ ）	110			6	
（ ）					
（ ）					
（ ）					

4)杭の構成は設計図による。
5)杭頭補強
●かご筋●スタッド溶接●杭外周溶接

4-5

場所打鉄筋コンクリート杭,場所打鋼管コンクリート杭
1)工法
●アースドリル工法●底部アースドリル工法
●リバーシ工法●オールケーシング工法（●ベント工法●）
●BH工法●
2)杭径,設計耐力,本数表(底部は施工径を示す)

杭径(底部)mm	管厚 mm	長期kN	短期kN	終局kN	本数	備 考
（ ）						
（ ）						
（ ）						
（ ）						
（ ）						

3)杭先端深さ●GL- m●杭リストによる●杭伏図による
4)孔壁測定（2方向）※行う（●全数●％）●行わない
5)使用材料 コンクリートの仕様は設計図による。特記のない場合JASS5水中コンクリートによる。
コンクリート Fc（●普通ポルトランドセメント●高炉セメントB種）
鉄筋●D 以下 SD295●D 以上 SD345
●D 以上 SD390
鋼管(リブ付)●SKK400●SKK490
杭打地業共通事項

4-6

1)〔●試験杭●試験据〕●行う（●本）●行わない
2)載荷試験●行う（●箇所,長期設計耐力の3倍を確認する）※行わない
3)SL塗布●行う※行わない

§ 5 鉄筋工事

5-1

材種

種 類	径	継 手
○ SD295	D 16 以下	※ 重ね継手●スパイラル●工場溶接
○ SD345	D 19 以上	●重ね継手※ガス圧接●溶接継手
● SD390	D 29 以上	※ ガス圧接●溶接継手●機械継手（級）
● SD490	D 以上	●ガス圧接※溶接継手●機械継手（級）
●溶接金網		●重ね継手
●高強度せん断補強筋	●1275級 P ●785級 K ●685級 U	●フック加工●スパイラル●工場溶接

5-2

ガス圧接部の検査(第三者機関による)外観検査全数(引張り試験の場合、施工者自主検査でもよい)
●抜き検査
○引張り試験(JISZ3120)
1検査ロットにつき※3本●原則 柱・梁の径毎に3本
超音波探傷試験(JISZ3062)●熱間押抜き試験
1検査ロットにつき○30箇所●
○不合格となった圧接部は切り取って再圧接を行う。また残り全数に対して超音波探傷試験を行う。
1検査ロットは1組の作業班が1日に施工した圧接箇所の数量で200箇所以内
溶接、機械式継手の検査は各々の認定方法による他、日本経手協会仕様書(2017年)及び下記を参照する。
JIS Z 3063 (鉄筋コンクリート用異形棒鋼溶接部の超音波探傷試験方法及び判定基準)
JIS Z 3064 (鉄筋コンクリート用機械式継手の鉄筋挿入長さの超音波測定試験方法及び判定基準)
梁貫通補強
補強筋は原則として工場製品(評定品)を使用する。
その他
基礎梁、基礎小梁の継手及び定着は原則として○①一般●②地反力を受ける
●③上載荷重が大きい場合とする。
梁の余長ℓの採用 大梁・小梁※D' (梁有効筋) ●端部上下筋15d 中央上下筋20d
基礎梁※min(D', L) ●端部上下筋15d 中央上下筋20d
鉄筋の組立は適切な位置にスペーサーを使用し、組立後は形状保持のための養生を行う。
コンクリートを2回打する部材は、初回の打設後に鉄筋の清掃を行う。
コンクリート打設前に工事監理者の検査を受け不備な箇所は修正を行う。

§ 6 コンクリート工事

6-1

レディーミクストコンクリート (JIS A5308-2019)
1)セメント※普通ポルトランドセメントJISR5210●高炉セメントB種
●低熱ポルトランドセメントJISR5210●
2)粗骨材●砂利※砕石●高炉スラグ骨材●人工軽量骨材●再生骨材
最大径(mm)※20●25●40
3)設計基準強度 (N/mm²) (使用区分は設計図の軸組図に示す)
●普通コンクリート
●Fc18○Fc21●Fc24●Fc27●Fc30●Fc30●Fc
●軽量コンクリート(※1種●2種 気乾単位容積質量※18.5●
●LFC18●LFC21●LFC24●LFC27●LFC30●LFC

4)土間コンクリート○Fc 18（ただし柱、壁等と同時に打込む場合は躯体の強度とする）
5)捨てコンクリート○Fc 18
6)防水押さえコンクリート●Fc●LFC（気乾単位容積質量※18.5●）
7)かさ上げコンクリート●Fc●LFC（気乾単位容積質量※18.5●）

6-2

混和材※AE減水剤●高性能AE減水剤●躯体防水材●膨張材
注1). 混和剤は所定の品質を確保するためにプラントの特性に応じたもの使用する。

箇 所	基礎、基礎梁	一 般		備 考
スラブ	cm 15以下	18以下		
水セメント比	% 60以下	60以下		60以下
単位水量	kg/m ³ 185以下	185以下		185以下
単位セメント量	kg/m ³ 270以上	270以上		270以上

注2). スラブは特記なき限り施工者が決め監理者に報告する。
試験(躯体コンクリートの28日圧縮試験は公的機関において行う)

6-3

1)骨材〔○塩分含有量●アルカリシリカ反応性〕※行う●行わない
2)フレッシュコンクリート〔○スラブ●空気量〕※行う●行わない
3)躯体のせき板取り外し時期決定圧縮試験※行う●行わない
4)コンクリートコア抜き取り圧縮試験●行う※行わない
5)マスコンクリートのひび割れ照査(温度応力解析)●行う※行わない
6)単位水量測定●行う○行わない

6-5

調査(補正値は工事費に含む)
計画供用期間の級()は耐久設計基準強度F_d
○短期(18)●標準(24)●長期(30)●超長期(36)
調査管理強度 F_m=Max (F_c, F_d)+S S=3~6
材齢28日の調査強度Fは下記の両式を満足するものとする。
F_d≧F_m+1.73σ F_d≧0.85F_m+3σ
せき板及び支柱の在置期間(普通ポルトランドセメントの場合)

	基礎、梁側、柱、壁	スラブ下	梁 下
コンクリート	15℃以上 3 日	17 日	28 日
の材齢	5℃以上 5 日	25 日	
による場合	0℃以上 8 日	28 日	
圧縮試験による場合	5N/mm ²	注)0.85F _c または12N/mm ²	注)設計基準強度

注)かつ、施工中の荷重及び外力について、構造計算により安全が確認されるまで。
住宅性能表示 劣化等級●等級2●等級3
劣化等級2又は3を指定する場合は、鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)2-7かぶり厚さ
が変わる為、かぶりを訂正又は、設計図に明示する
Fc36を超える場合は高強度コンクリートとし、仕様は別記特記仕様書（JASS5等）による

6-7

注)かつ、施工中の荷重及び外力について、構造計算により安全が確認されるまで。
住宅性能表示 劣化等級●等級2●等級3
劣化等級2又は3を指定する場合は、鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)2-7かぶり厚さ
が変わる為、かぶりを訂正又は、設計図に明示する
Fc36を超える場合は高強度コンクリートとし、仕様は別記特記仕様書（JASS5等）による

6-8

Fc36を超える場合は高強度コンクリートとし、仕様は別記特記仕様書（JASS5等）による

§ 7 鉄骨工事

7-1

材種及び使用箇所

規 格 名 称	鋼 材 名	柱	通 じ 内 梁	大 梁	ブレース	小梁 他
一般構造用圧延鋼材	○ SS400●			○		○
溶接構造用圧延鋼材	● SM400A● SM490A					
建築構造用圧延鋼材	○ SN400A●					○
	● SN400B● SN490B					
	● SN400C○ SN490C		○			
一般構造用角形鋼管	● STKR400● STKR490					
冷間成形角形鋼管	○ BCR295● BCP325	○				○
熱間成形角形鋼管	● SHC400B● SHC400C					
	● SHC490B● SHC490C					
一般構造用炭素鋼管	● STK400● STK490					
一般構造用軽量鋼管	● STKN400● STKN490					
建築構造用圧延棒鋼	○ SSC400●					○
	○ SNR400●			○		

7-2

高力ボルト

高 力 ボ ル ト の 種 類	使用 箇 所
トルシア形高力ボルト	※ S10T 全般
JIS形高力ボルト	● F10T トルシア形が使用できない部分
溶融亜鉛メッキ高力ボルト	● F8T 母材が亜鉛メッキされている部分
超高力ボルト	● S14T 屋内環境

普通ボルト、アンカーボルト
1)材質●SS400○SD490 (M 以上)
●ABR400●ABR490●ABM400●ABM490 (ABMはM24以上)
2)大臣認定柱脚(メーカー仕様による)○使用する●使用しない
頭付きスタッド

径	長 さ(mm)	使用 箇 所
16 φ	● 80 ● 100 ● 120 ● 150 ●	
19 φ	● 80 ● 100 ● 120 ● 150 ●	
22 φ	● 100 ● 120 ● 150 ● ●	

7-5 溶接材料
1)アーク溶接に使用する溶接棒、ワイヤ及びフラックスは母材の種類、寸法、及び溶接条件に相応したものを選定する。
2)ガスシールドアーク溶接に使用するシールドガスは溶接に相応したものとする。
7-6 スクラップ形状※ノンスクラップ工法○スクラップ工法
7-7 継手

	柱	梁
フランジ	●高力ボルト●現場溶接	※高力ボルト●現場溶接
ウェブ	●高力ボルト●現場溶接	※高力ボルト●現場溶接

7-8

溶接手法及び管理
1) 使用する溶接ワイヤー、入熱量及びバス間温度等の仕様については鉄建協又は全構協の仕様で、専任の溶接施工管理技術者により管理を行うこと。
2) 完全溶け込み溶接はAW規定の有資格者が行うとする指定を●行う●行わない
3) 本工事で代替タブを使用する場合は、代替タブ溶接技能者技量検定付加試験を●行う●行わない
但し、代替タブのAW規定有資格者は技量検定付加試験を免除する。

7-9

デッキプレート（単位 mm）
1) 床用 高さ●板厚●
2) 合成スラブ用 高さ●板厚●
3) 型枠用 高さ●板厚●形版タイプ
4) 防錆処理●プライマー●亜鉛メッキ●Z12●Z27
塗装(工場塗※2回○1回、現場タッチアップ程度とする)
1) 素地調整※ケレン●プラスト
2) 下塗り用塗料

適用	塗 料	種 別	標準膜厚
屋外 室内			
※	鉛、クロムフリー錆止め	JISK5674	※1種※2種 30 μm
○	一般用錆止めベイト	JISK5621	○1種●2種 30 μm
●	変性エポキシ樹脂プライマー	JASS18 M-109	●1種●2種 40 μm
●	有機ジンクリッチプライマー	JISK5552	●2種 15 μm
●	構造物用さび止めベイト	JISK5551	A種 30 μm

3) 溶融亜鉛メッキ●行う○行わない
4) 常温亜鉛メッキ●行う○行わない
5) 高耐食メッキ鋼板(t3, 2mm以下)●用いる○用いない
溶接部の検査(受入検査)◎行う●行わない

7-11

1)受入検査を行う第三者検査機関は、工事施工者(元請)との直接契約による。
2)第三者検査機関は(社)日本溶接協会によるCIV検査事業者認定種別における超音波探傷検査部門の認定を取得した事業者とし、当該工事の鉄骨製作工場の社内検査を行っていない事業者とする。
3)受入検査は目視による外観検査と超音波探傷検査とし、社内検査完了後に行う。
4)外観検査の合格判定は国土交通省告示1464号による。ただし告示に定めのないものは日本建築学会「JASS6 鉄骨工事 2018 付則6. 鉄骨精度検査基準」の限界許容差による。
5)超音波探傷検査は日本建築学会「鋼構造建築溶接部の超音波探傷検査規準・同解説」2018により、合格判定は7.2.1疲労を考慮しない溶接部のうち、引張応力が作用する溶接部の項を適用する。
6)溶接箇所数の数え方は「JASS6 鉄骨工事 2018」表10.1溶接箇所数の数え方による。
7)受入検査の抜取り方法及び抜取り率は以下による。
a)工場溶接の場合
i. 検査ロットは各節、各工区毎に溶接箇所300箇所以内で構成する。
ii. 抜取り数は各ロット毎に30箇所をランダムにサンプリングする。
iii. 大きさ30箇のサンプル中の不適合個数が1個以下のときはロットを合格とし、4個以上のときはロットを不合格とする。ただし、サンプル中の不適合数が1個を超え4個未満のときは、同じロットからさらに30箇のサンプルを抜取検査する。総計60箇のサンプルについての不適合個数の合計が4個以下のときはロットを合格とし、5個以上のときはロットを不合格とする。
b)現場溶接の場合
i. 全数検査とする。
8)検査により不合格と判定された溶接部はすべて補修を行い、再検査して合格とならねばならない。
9)ずれ・食い違いの補修方法は、独立行政法人 建築研究所監修「突き合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」による。

7-12

鉄骨製作工場 下記○印のグレード認定工場の内、納期・製作能力・鉄骨数量を勘案して工場選択のこと

国土交通省大臣認定(グレード)					
S	H	M	Ⓡ	J	

§ 8

8-1

コンクリートブロック
1)種類●A種●B種●C種
2)厚さ mm●100●120●150●190

8-2

ALC パネル
1)使用箇所●床●屋根●外壁●内壁
2)厚さ mm●75 (80)●100●120 (125)●150●175
3)外壁取り付け構法

方 向	構 法	使用 箇 所	備 考
縦	● ロッキング構法		
横	● アンカー構法		

8-3

押出成形セメント板
外壁取付構法及び厚さ mm●●

方 向	構 法	使用 箇 所	備 考
縦	● ロッキング構法		
横	● スライド構法		

8-4

PCa板
1)床及び屋根●床●屋根
●PCa板単独 厚さ mm●●
●合成板
PCa板厚さ mm 現場打厚さ mm 合計厚さ mm 備 考

2)外壁 厚さ mm●●

特 記

（販売元）一般社団法人日本建築構造設計事務所協会連合会 http://fasa-net.jp

（発行元）一般社団法人関西建築構造設計事務所協会 TEL (06) 6763-8205 FAX (06) 6763-8206 http://www.kse-web.com/

2023年2月1日作成 (不許複製)

工 事 名 称

新築工事

図 面 名 称

構造特記仕様書

縮 尺

設計事務所

アトリエ 73

一級建築士事務所登録第1-2481号 一級建築士登録第343708号 大久保 雅章 一級建築士登録第210968号 大久保 和英

承認

検 査

設 計

製 図

作図年月日

種別

訂正年月日

図面No.

S-01

鉄 骨 工 作 標 準 図 (1) 2 0 2 3 年 度 版	
1-1 基 本 事 項	§ 1 一般事項
1-2 そ の 他	1) 使用材料、工法は構造特記仕様書による。 2) 設計図書に記載なき場合は本標準図に従うものとする。また、本標準図に明記なき場合は、構造特記仕様書 1-2-4、5 に指定した共通仕様書および標準仕様書による。 3) 製作精度等に関しては、J A S S 6 の付則 6「鉄骨精度検査基準」による。 4) 本標準図に示す単位は特記なき限りすべてmmとする。
2-1 略 号	§ 2 共通事項
3-1 高力ボルト	§ 3 ボルト接合
3-2 高力ボルトのピッチ	
3-3 形鋼のゲージ	
4-1 隅 肉 溶 接	§ 4 溶接接合
4-2 完 全 溶 込 み 溶 接 (突 合 せ 溶 接)	
4-3 部 分 溶 込 み 溶 接	
4-4 フレア溶接	
4-5 そ の 他	
5-1 継手リスト	§ 5 継 手
5-2 小 梁 仕 口	
ピン 接 合 Aタイプ	
剛 接 合 Bタイプ	

特 記	工 事 名 称	施 工 日 程	設 計 日 程	製 図 日 程	作 図 年 月 日	種 別
	図 面 名 称	縮 尺			訂 正 年 月 日	図 面 No.

(販売元)一般社団法人日本建築構造設計事務所協会連合会

http://fasa-net.jp

(発行元)一般社団法人関西建築構造設計事務所協会

TEL (06) 6763-8205

FAX (06) 6763-8206

http://www.kse-web.com/

2020年2月1日作成

(不許複製)

設計事務所 アトリエ73

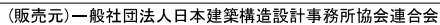
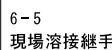
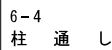
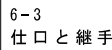
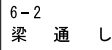
一級建築士事務所登録第I-2481号 一級建築士登録第343708号 大久保 雅章
一級建築士登録第210968号 大久保 和英

承認	検 図	設 計	製 図	作 図 年 月 日	種 別
				訂 正 年 月 日	図 面 No.

S-04

6-6
そ の 他

6-1
勾配屋根

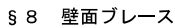
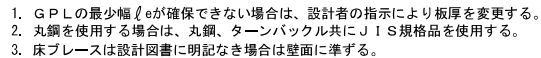


腰折れ柱

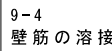
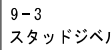
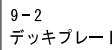
柱が角形鋼管の場合

- § 7 柱 脚

7-1
一般柱脚

8-1
ブレースリスト

9-1
貫通補強



特 記	工事名称	薦原分団薦生地区消防ポンプ庫解体及びコミュニティ消防センター 新築工事			設計事務所 アトリエ73 一級建築士事務所登録第343708号 大久保 雅章 一級建築士事務所登録第210968号 大久保 和英	承認	検 図	設 計	製 図	作図年月日	種 別
	図面名称	鉄骨工作標準図(2)	縮 尺			 訂正年月日 図面No. S-05					

深層混合処理 特記仕様書

§ 1 工法概要

本工事は、深層混合処理工法による地盤改良地業である。深層混合処理工法は、軟弱地盤にスラリー状のセメント系固化材を注入しながら、共回り防止翼を装備した攪拌装置を用いて、混合・攪拌の工程を繰り返し、原土と均一に混合攪拌するソイルセメント柱体築造地業であり、固化材の化学的反応により安定かつ高強度を保つ地盤改良工法である。

§ 2 一般事項

本地業および本特記仕様書は、小規模建築物において摘要する。
なお、ここでいう小規模建築物とは、下記のすべてを満足するものをいう。

- 地上階：3階以下
- 建物高：13m以下
- 軒 高：9m以下
- 延面積：500㎡以下

基本事項では、「改訂版 建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針」（2018年11月30日 財団法人日本建築センター、以下指針という）による。
コラム径、掘削深度(改良長+空堀長)、本数配置等は、設計図書による。
ただし、コラムの径・長さ・本数・位置及びセメントスラリーの配合等について土質や地盤状況により変更した方が適切と判断される場合は、監督員の承認の上変更することができる。

§ 3 コラム仕様

- ＜1＞設計基準強度
コラムの設計基準強度は $F_c=850\text{kN}/\text{㎡}$ とする。
- ＜2＞数量表

コラム径 (mm)	掘削長 (m)	改良長 (m)	空堀長 (m)	本 数 (本)
800	2.00~2.65	1.30~1.95	0.70	6

※ 改良長は支持層により調整する。

§ 4 配合管理

＜1＞配合強度

簡便な検査方法を採用するため配合強度 X_f は高めに設定し、設計基準強度 F_c との間に余裕を持たせることとし、次式により求める。 $X_f\geq 2.5\times F_c$

＜2＞固化材配合

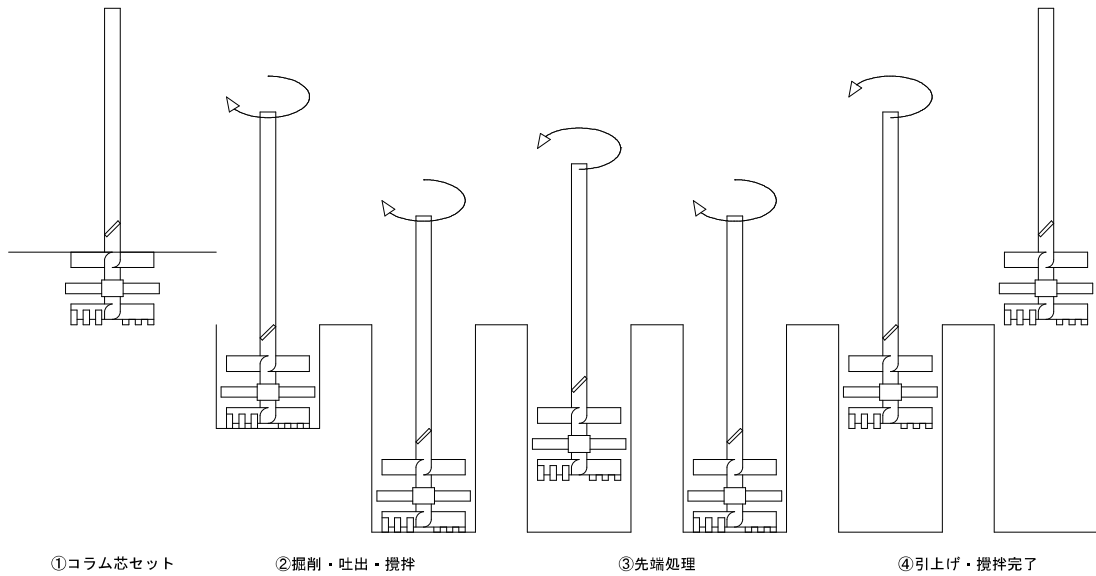
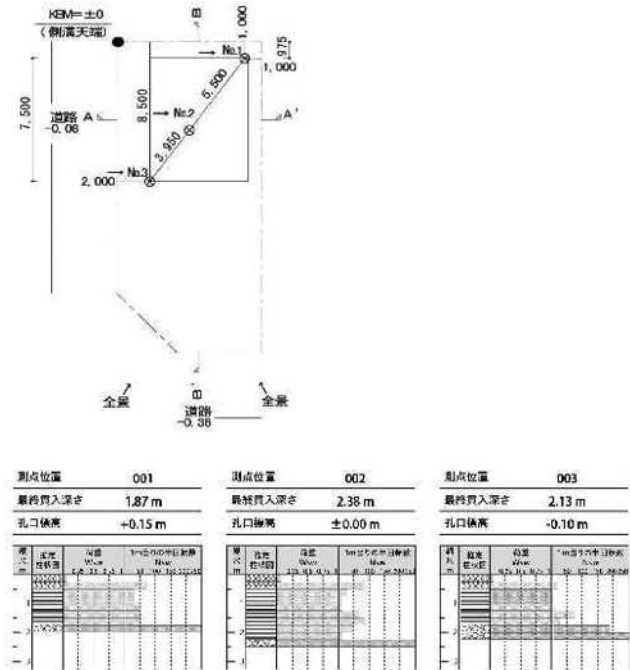
固化材の配合は原則として、改良部分の検査対象土を採取し、3種類以上の添加量にて室内配合試験を行い試験結果と配合強度を基に添加量を決定する。
既存データから配合量と室内強度の関係が把握できる場合は、配合試験を省略しても良い。この場合既存データにおける安全側の数値を用いて配合量を決定する。
※使用する固化材は、六価クロム等の土壌環境基準に適合することを確認する。

- 固化材添加量 300kg/㎡
- 固化材液濃度 W/C:70%（土質により調整する）

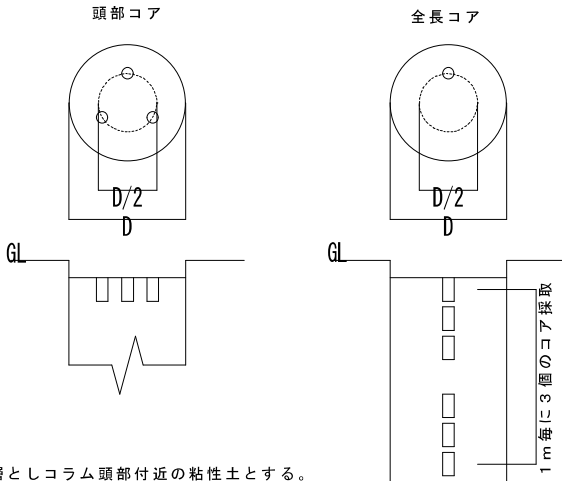
§ 5 施工管理

改良体の諸元に対し確実に遂行できる機械設備を用いてコラムを築造する。
機械設備には下記管理項目に対し自動自記される管理装置を使用する。

- ①固化材スラリーの吐出量
- ②攪拌機の軸回転数
- ③掘削深度・速度及び引上げ深度・速度
- ④掘進抵抗値（トルク値またはオーガー電流値等）



＜5＞採取位置



§ 6 品質検査

＜1＞検査対象層

検査対象層は、設計対象層としコラム頭部付近の粘性土とする。

＜2＞検査方法

	設計対象層が頭部にある場合	設計対象層が深部にある場合
検査指標	コラム頭部から採取した供試体の一軸圧縮強さ	コラム頭部及び深部から採取した供試体の一軸圧縮強さ
調査カ所数	頭部コア 3カ所以上（1カ所当たり3供試体以上） 深部コア 1カ所以上（3供試体以上） ただし、改良長 $L\leq 3\text{m}$ 、改良対象層が単一の場合は深部コアの採取を省略してもよい	頭部コア 3カ所以上（1カ所当たり3供試体以上） 深部コア 1カ所以上（3供試体以上）
判定	$X_i\geq F_c$ X_i : 個々のコアの一軸圧縮強さ	$X_i\geq F_c$ X_i : 個々のコアの一軸圧縮強さ

※設計基準強度850kN/㎡

＜3＞ボーリングコア採取率（連続性の確認）

ボーリングコアを採取する場合は採取率を測定する。
コア採取率は、全長に対して砂質土系で95%以上、粘性土系で90%以上とする。
1m当りのコア採取率は、砂質土系で90%以上、粘性土系で85%以上とする。
(塩ビ管などを代用する場合もある)

＜4＞モールドコア

供試体はモールドコアでの採取でもよいが、ボーリングコアとの相関性に関するデータ

の蓄積及び一軸圧縮強さに対し変動係数を考慮した判定とする。
工法・施工機ごとに地盤条件とコア採取率に関する検討を行い、コアの連続性に関して支障がないことを確認する。

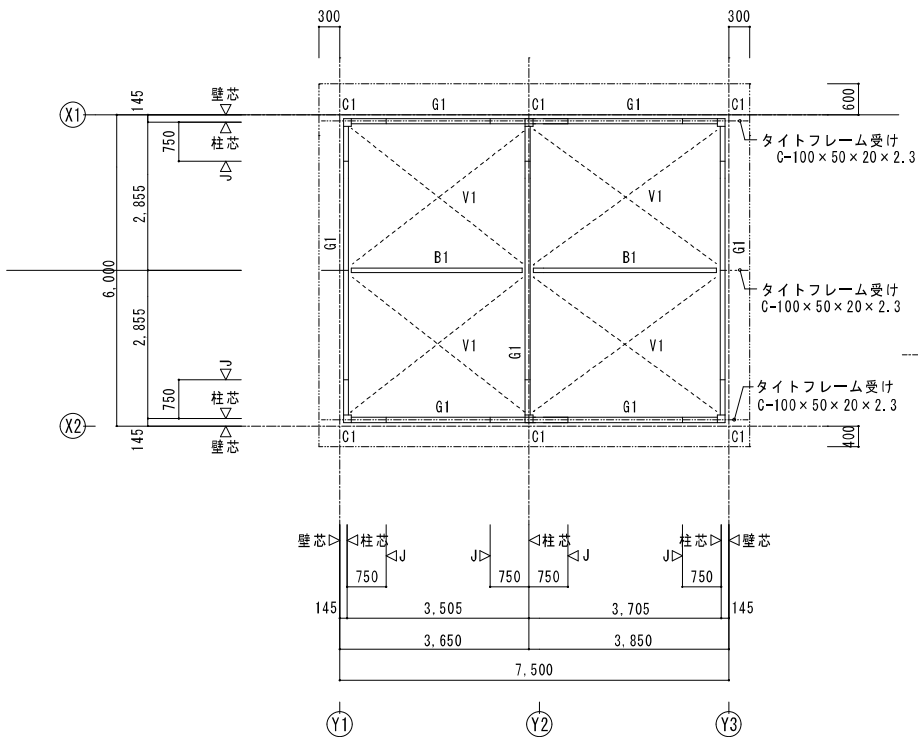
＜5＞杭の載荷試験

長期許容支持力110kN/㎡・短期許容支持力220kN/㎡

§ 7 提出資料

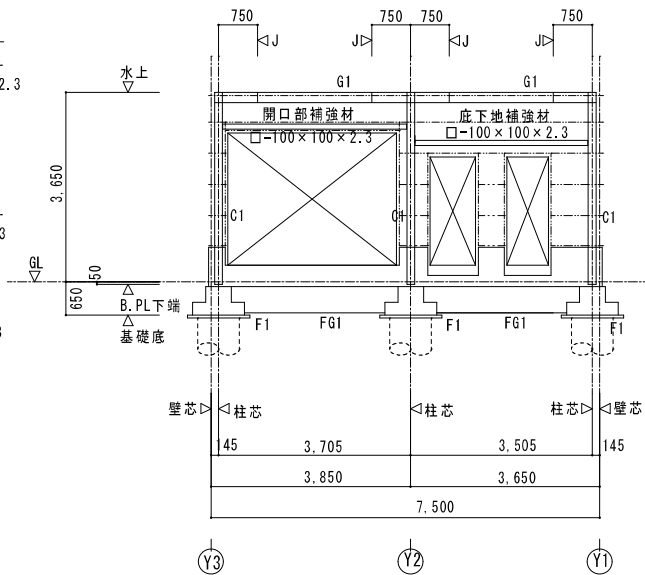
本工事着工までに § 1～ § 6の要求事項を満足させるための施工計画書を提出する。基礎工事着工までに § 1～ § 6の要求事項を満足させた施工報告書を提出する。

	工事名 鷹原分団鷹生地区消防ポンプ庫解体及びコミュニティ消防センター 新築工事		
	図面名	図尺	頁数
	深層混合処理 特記仕様書	日付	⑦ S-06
	設計事務所 アトリエ73 一級建築士事務所登録第142481号 一級建築士登録第343708号 大久保 雅幸 一級建築士登録第210968号 大久保 和英		

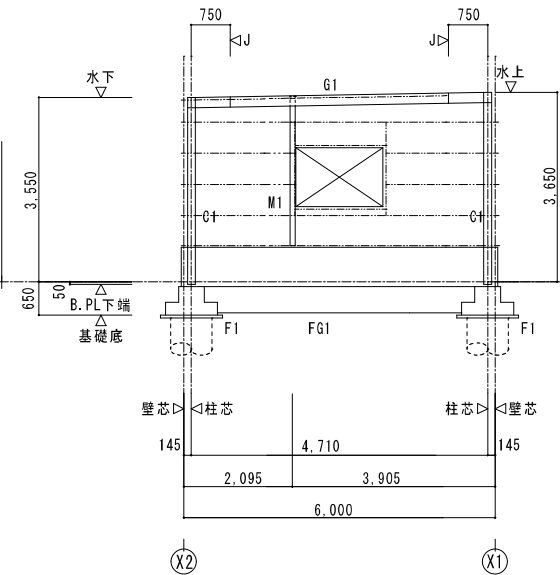


梁伏図 1:100

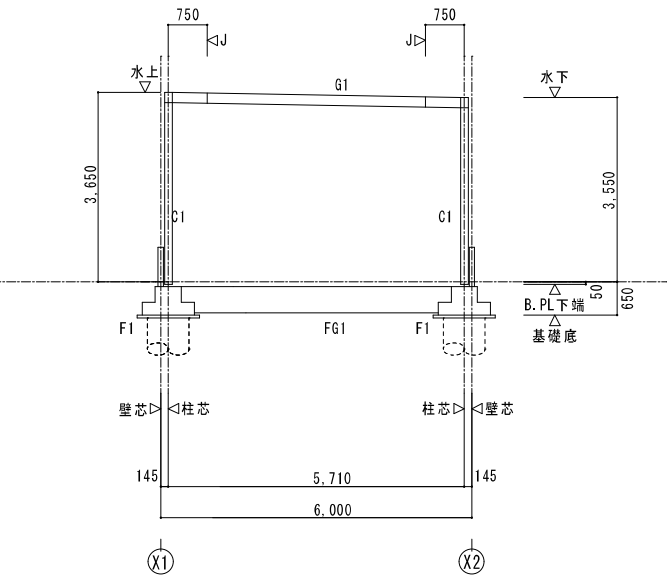
共通事項
※ <J印はジョイント位置を示す。



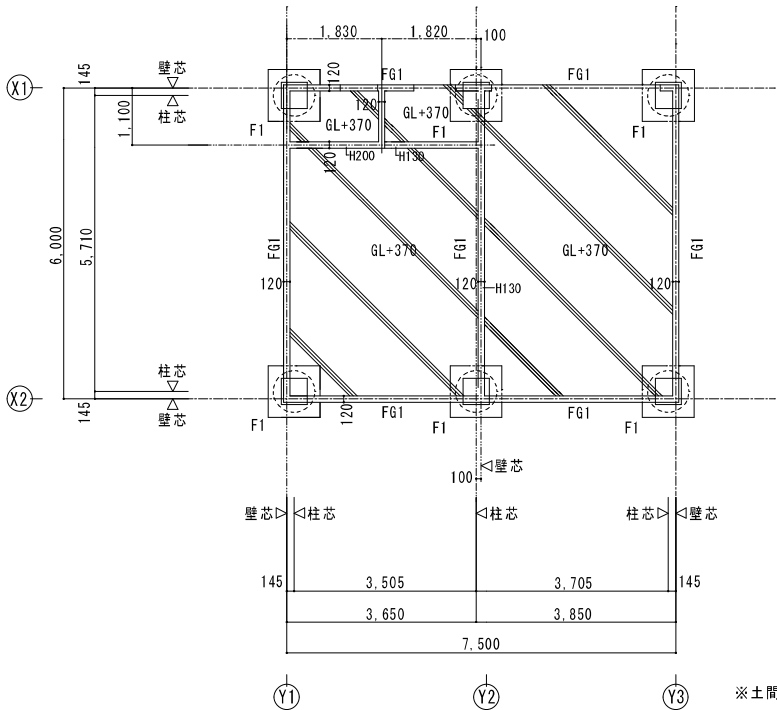
X1通軸組図 1:100



Y3通軸組図 1:100



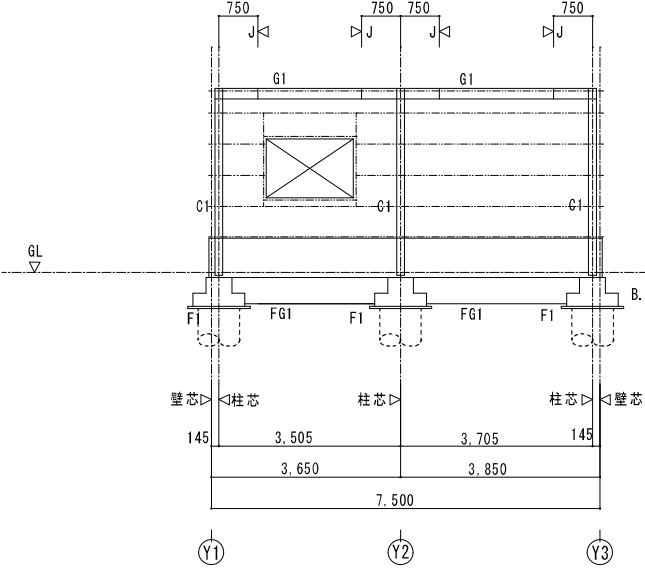
Y2通軸組図 1:100



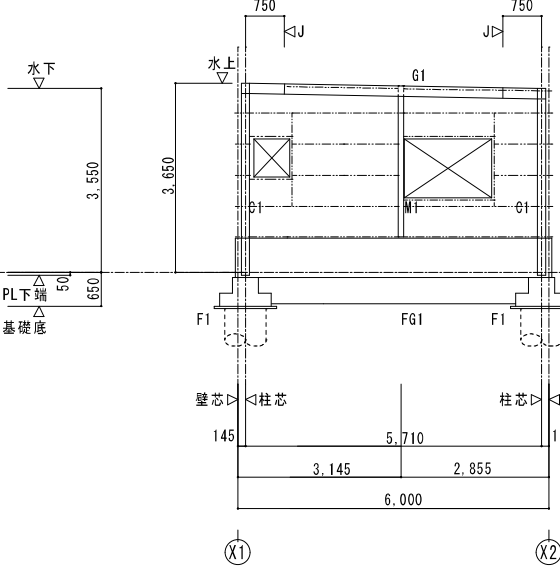
基礎伏図 1:100

共通事項
※柱芯＝基礎芯を示す。

設計地耐力
fe=110 KN/m² (長期)



X2通軸組図 1:100



Y1通軸組図 1:100

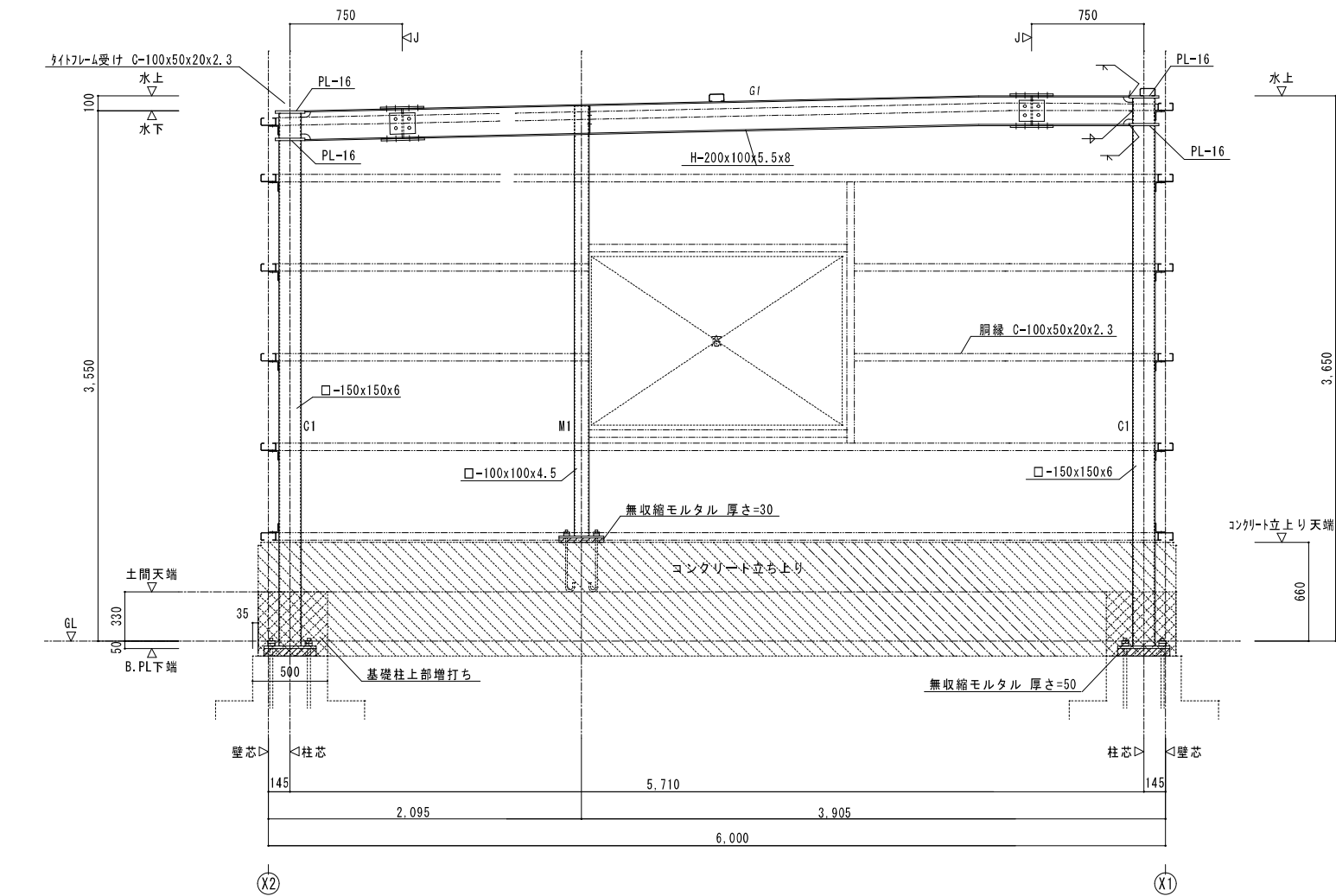
※土間レベルは意匠図参照とする。

土間コン t=150
土間鉄筋 D10@200SC
スタイロフォーム t=25
防湿シート t=0.15 敷砂 t=30
再生砕石 t=100

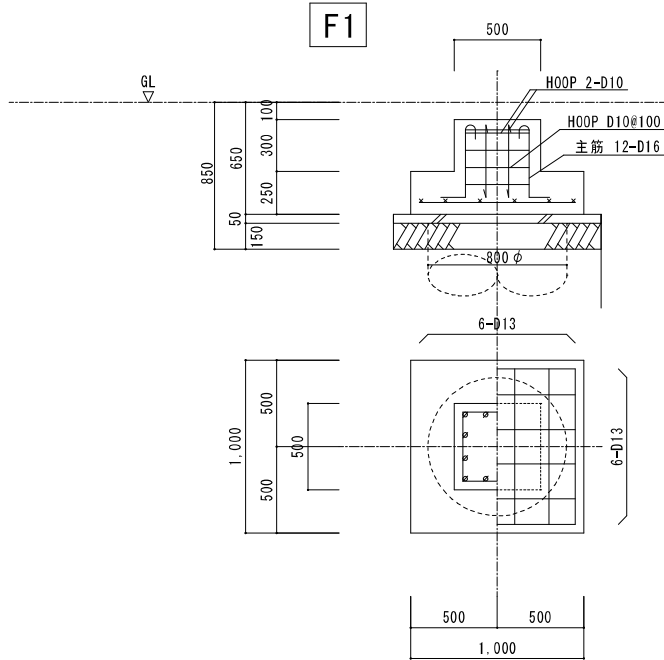
改良仕様
工法 深層混合処理工法工法
柱状改良径 800φ
改良長さ L=1.30~1.95m (GL-2.65m)
設計基準強度 Fc=850 KN/mm²
固化材添加量 : λ =300 Kg /m³
固化材液濃度 : W/C =70 % (土質により調整する)

共通事項
※ <J印はジョイント位置を示す。

工事名		鹿原分団鹿生地区消防ポンプ庫解体及びコミュニティ消防センター新築工事	
図面名	基礎伏図	縮尺	1:100
	梁伏図・軸組図	日付	⑦
設計事務所		アトリエ73	⑧
一級建築士事務所登録第1-2481号		一級建築士登録第343708号	大久保 雅幸
		一級建築士登録第210968号	大久保 和実

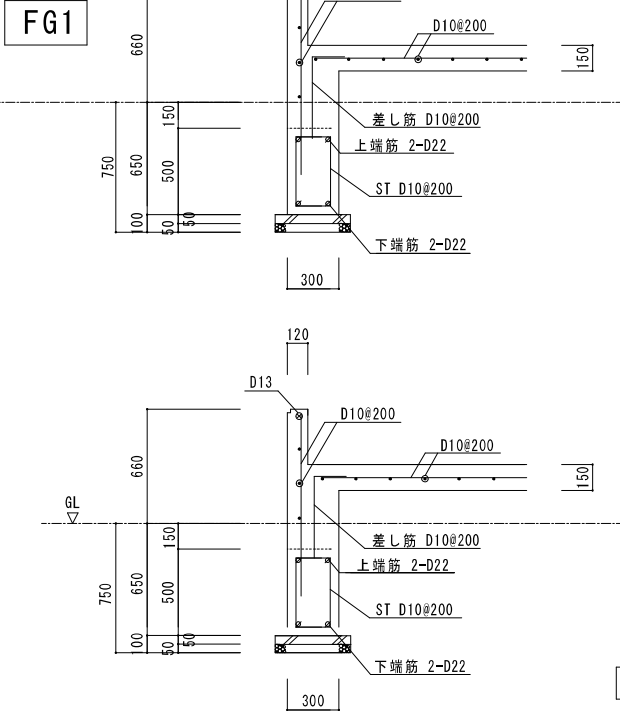


Y3通架構詳細図 1:30

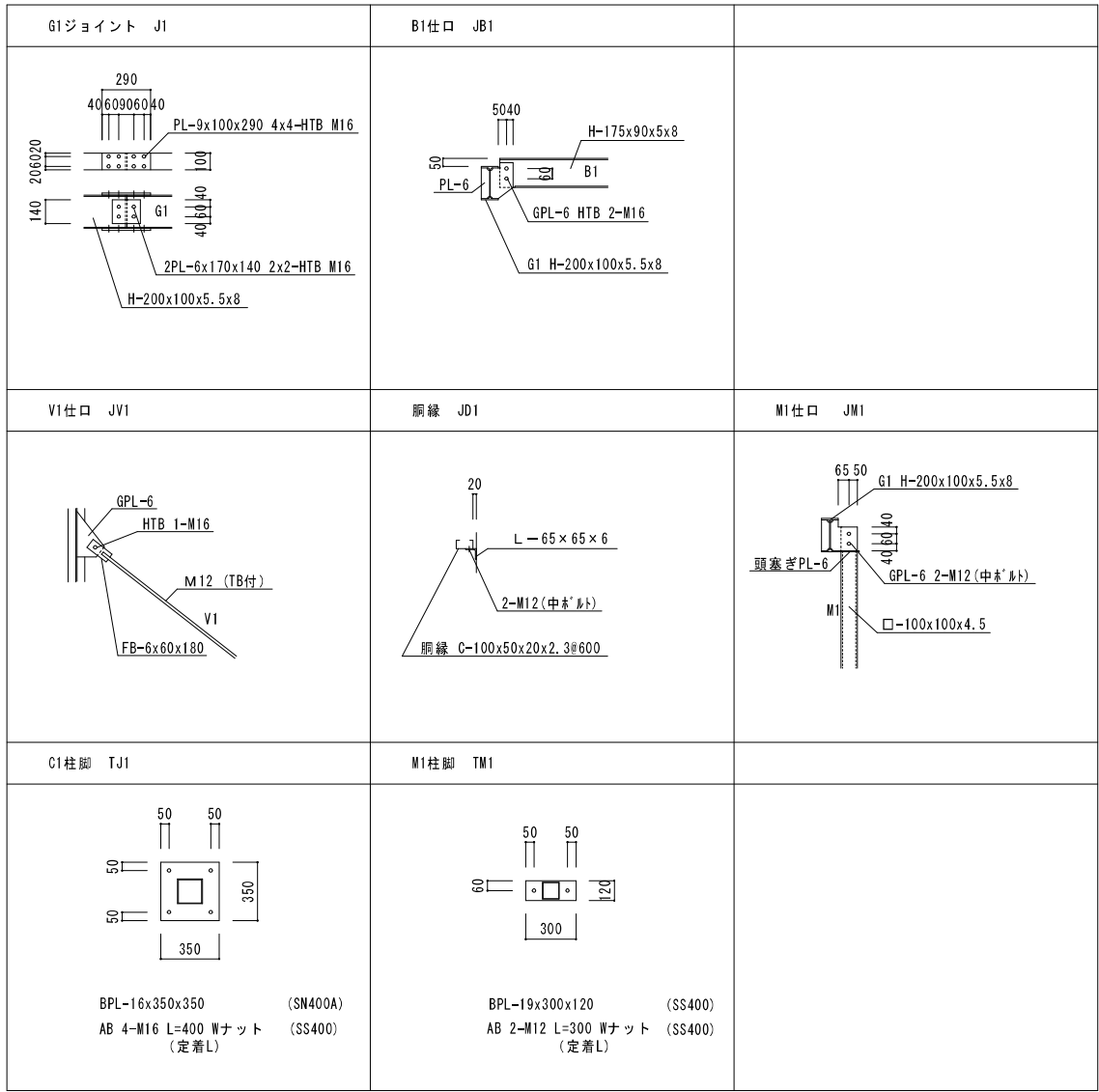


F1基礎詳細図 1:30

※ 基礎ベース下 (柱状改良部分)



立上り部・土間配筋図 1:30



部材リスト						
記号	部 材	接合部	柱脚部	記 号	部 材	接合部
C1	□-150x150x6		TJ1	横鋼縁	C-100x50x20x2.3@600	JD1
M1	□-100x100x4.5	JM1	TM1			
	□-100x100x2.3(底取付下地補強材)			V1	1-M12 (ターンバックル付)	JV1
G1	H-200x100x5.5x8	J1				
B1	H-175x90x5x8	JB1				



間仕切り壁下部腰壁 1:30

使用材料	
躯体コンクリート	$F_c = 21 \text{ N/mm}^2$
土間コンクリート	$F_c = 18 \text{ N/mm}^2$
捨てコンクリート	$F_c = 18 \text{ N/mm}^2$
鉄筋	SD295A

鋼材の種類	
角形鋼管	BCR295
H形鋼	SS400
リップ溝形鋼	SSC400
ダイヤフラム	SN490C
ベースプレート	SN400A
その他鋼材	SS400

工事名 鹿原分団鹿生地区消防ポンプ庫解体及びコミュニティ消防センター 新築工事			
図面名 架構詳細図 基礎詳細図・各部詳細図	縮尺 1:30 日付	頁数 S-08	
設計事務所 アトリエ73 一級建築士事務所登録第1-2481号 一級建築士登録第343708号 大久保 雅博 一級建築士登録第210968号 大久保 和英			